## ワークショップ 1



# 生成 AI の研究活用

愛知淑徳大学健康医療科学医療貢献学科理学療法学専攻

**澤村　彰吾**

生成 AI は、研究活動や学術活動のさまざまな場面で活用され始めている。先行研究の検索、研究テーマの整理、リサーチクエスチョンの検討、研究計画の作成、さらには学会抄録や論文執筆の支援など、これまで多くの時間と労力を要してきた作業において、生成 AI は有用なサポートとなる可能性がある。

一方で、生成 AI は単に作業を効率化するための道具というだけではない。AI が出力した情報をどのように受け止めるか、自分自身の専門性や問題意識をどのように反映させるか、そして研究活動の中で AI とどのような距離感で付き合っていくかを考えることも重要である。生成 AI に任せきるのではなく、研究者自身の思考を整理し、視点を広げるための対話相手として活用することで、より実践的な学術活動支援につながると考えられる。

本ワークショップでは、生成 AI を学術活動にどのように活用できるのかを、実際の手を動かしつつ体験する。まず、関心のあるテーマに関連する先行研究をどのように探し、得られた情報をどのように整理するかを扱う。次に、その情報をもとにリサーチクエスチョンを検討し、研究計画として具体化していくプロセスを体験する。生成 AI との対話を通じて、研究アイディアを言語化し、整理し、少しずつ形にしていく流れを共有する予定である。

また、研究成果を発信する場面での活用についても取り上げる。学会抄録の作成、論文の構成案づくり、文章表現の改善、英語表現の調整など、ライティング支援における生成 AI の活用方法を、実際の例を用いながら体験する。完成した文章をそのまま使うことを目的とするのではなく、自分の意図をより明確に伝えるために、AI をどのように使えるかを考える機会とする。

本ワークショップは、生成 AI の使い方を一方的に紹介する場ではなく、参加者とともに、学術活動の中での活用の可能性を考える機会でもある。生成 AI には便利な面がある一方で、限界や注意すべき点もある。その特性を踏まえながら、研究の質を保ちつつ、日々の学術活動を円滑に進めるためのヒントを共有する。

生成 AI をこれから使ってみたい方、すでに使っているものの研究活動への応用を模索している方にとって、日々の学術活動をより円滑に進めるための一助となれば幸いである。

**略歴**

【学歴】
2012 年　秋田大学医学部保健学科理学療法学専攻　卒業
2019 年　中部学院大学大学院人間福祉学研究科修了　修士（社会福祉学）
2024 年　岐阜大学医学部医学系研究科脳神経科学脳病態解析学分野修了　博士（医学）

【職歴】
2012 年　木沢記念病院（現・中部国際医療センター）　総合リハビリテーション部
2021 年　平成医療短期大学リハビリテーション学科理学療法専攻　助教
2024 年　平成医療短期大学リハビリテーション学科理学療法専攻　講師
2025 年　広島大学大学院　人間社会科学研究科　研究員（現在に至る）
2025 年　広島大学　ダイバーシティ＆インクルージョン推進機構　客員研究員（現在に至る）
2026 年　愛知淑徳大学健康医療科学医療貢献学科理学療法学専攻　准教授